

山形市民登山愛好会 50 年のあゆみ

2025 年 1 月吉日

大自然を満喫できる山への憧れ、そしてあくなき登山の情熱と、会員相互の交流を大切にしてきた諸先輩方の努力によって、1975 年に創立した山形市民登山愛好会（愛好会、当会）は 2025 年（令和 7 年）創立 50 周年を迎えました。誠にありがとうございます。みんなで祝いたいと思います。

この度これを記念して、だれでも手軽に閲覧可能なホームページ上に、これまでの当会のあゆみを断片的ながら振り返ってみました。今後も安全登山第一に会員の交流を深め山を楽しんでまいりましょう。

はじめに、創立 30 年を経過した 2007 年（平成 19 年）1 月、区切りとしてそれまでの当会のあゆみをまとめるべく、第 5 代松浦会長時代、別紙のような報告、依頼があり、当時を知るであろう皆さんに聞き取りを行い、記録を残されていた佐藤キヨ子さん、三瓶久美子さん他皆さんから具体的な情報提供がありましたが、追加できた内容を含め現在記録（山形市民登山愛好会の軌跡、以下軌跡）が残っているところまでで、当初企画した 30 年誌等の発行までは至らなかったということでした。創立時の様子、山行を含む初期の 1978 年（昭和 53）～1983 年（昭和 58）頃の活動内容があまりわからないのは残念ではありますが、しかしながら、この機会に再度一つの区切りとして 50 年に渡るこれまでの愛好会の活動の記録を残しておいた方がいいという結論に達しました。20 年前に作成された「軌跡」を元に、顧問はじめ、旧役員の皆様のご協力によってなんとか形にすることができました。これまで「軌跡」では 1975 年（昭和 50 年）7 名で創立となっておりますが、今回の調査、取材でどうやら違うこともわかりました。また当会こだわりのホーム雁戸山の理由についてもわかってきました。そして活動内容がわからない空白の 6 年間についても謎が少し解けました。

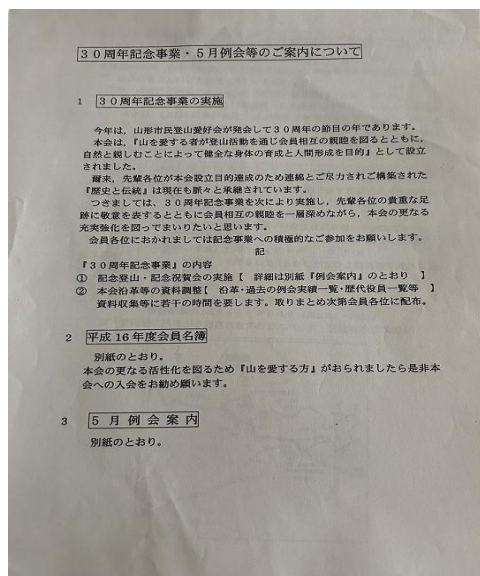
山形市民登山愛好会の軌跡(1975年～)

1970(昭和45)年度					
山形市民登山開始 6/27 月山 101人参加					
1975(昭和50)年度					
7人で発足					
9月14日	月山		12回市民登山		
10月26日	南蔵王	14			
1976(昭和51)年度					
1月26日	新年会	12	養丸道		
3月28日	総会	18	県民会館		
4月25日	OL大会	11	東沢公園		
5月30日	御所山	18	合同山開き		
6月6日	蔵王クリーン作戦	7			
6月27日	一切経山	10	13回市民登山		
7/31～8/1	鳥海山	21			
8月7日	家族水泳大会		霞城室内プール		
9月23日	芋煮会	10	馬見ヶ崎川		
10月31日	OL大会	7	鳥帽子山公園		
11月14日	飯岳	17			
2月1日	「こまくさ」第1号発刊				
1977(昭和52)年度					
7/9～10	鳥海山		15回市民登山		
1978(昭和53)年度					
～ この間不明					
1983(昭和58)年度					
1984(昭和59)年度					
4月15日	飯岳				
4月22日	上山葉山	6			
5月27日	翁峠	4			
			顧問		
			会長 武田 繁雄		
			副会長		

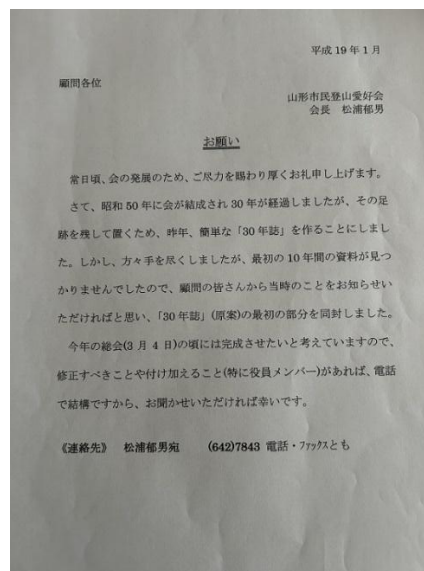
この度の「50 年のあゆみ」は経費等も考慮した結果、紙誌の形はとらず、ホームページ上に掲載することになりました。加筆・訂正も随時可能であることから、今回公開することで、新たな情報の提供を期待しつつ、わからないことはわからないと記載し、それは「すでに長い年月が経っていて仕方がないこと」というスタンスで作業をすすめました。

わかりやすくするため年表記については、西暦とし、(S.H.R) で可能な範囲で年号併記しました。

←が「軌跡」の初期の部分



2004年 (H16)



2007年 (H19) 1月

I 歴史編

(1) 1975年(昭和50年)創立と誕生物語(1970年～1974年)

山形市民登山愛好会(以下愛好会)は、1975年(昭和50年)3月、会員十数名で創立された。その正確な日時は今でもよく分かっていない。この年は日本女子登山隊が結成され、田部井淳子さんが女性初エベレスト登頂を果たすなど、登山がさらに脚光を浴び、沖縄で海洋博が開催された年でもある。遡ること5年1970年(昭和45年)は日本山岳会が、日本登山史の画期でもある世界で6番目にエベレストに登頂し、日本は登山ブームの只中にあった。そんな熱気のある同じ年に始まった、山形市主催の「山形市民登山」が愛好会の結成のきっかけとなっている。それが『山形市民登山愛好会』名称の由来ともなっている。



今回話を伺った創立メンバーで、長年事務局(長)を務められた渡辺徹さんと当時市役所勤務の高橋浩三さんの記憶によると概ね次のような経緯となる。

1970年に始まった山形市主催の山形市民登山(毎回100人程度の参加で大人気、現在も続いている)に継続参加して、お互い顔馴染みとなる。最初に会の話がでたのはたしか昭和47年(1972年)第6回市民登山の安達太良鬼面山登山だったと思う(高橋)。その後ある年の6月、市主催の蔵王クリーン作戦(ごみ拾い登山)に参加するバスの中で、参加者から現在年2回(春・秋)の市民登山をもっと回数を増やせないかとの意見があり、それに対し当時の市保健体育課の方から、残念ながら現在の職員体制では無理との回答がありました。その言葉の後に「実は私たちが来週雁戸山に登るつもりでいるのだが、よかったら一緒にどうですか」と呼びかけがあった。そしてその時雁戸山登山に参加したメンバーが初代会長の菊池保夫さん、2代目会長の鈴木儀夫さん、4代目会長の武田繁雄さん、上白土晋一さん、高橋浩三さん、折原信夫さん、柴田さん(女性、会計担当)の7名だった。(のちに七人の侍と呼ばれ、これが伝説

的に伝えられ、創立者7人ということにつながったのではないかと思われる）なお渡辺さんはその日は仕事で参加できなかったそうです。その中で、高橋さん、折原さん（2人は市の職員）から、登山クラブを作り、市の青少年健全育成連合会に登録すれば、補助金（当時年間3000円）が出るとの話もあったようです。参加者はそこではじめて登山クラブを俺たちも検討してみようかとなったと思われます。当時は3人寄れば山岳会、山形市どこの会社にも山岳部があるという感じだったそうです。

そして次の年かよく記憶していないが、オリエンテーリング協会主催の大会が千歳山のグラウンドであり、その終了後盃山の愛宕神社前の石段で休んでいるとき、再び登山クラブを作ろうという話がでて、その場にいたメンバー（誰々かは不明）でうん、やろうということになり、それにはいろんな準備も必要だろうからということで、その話し合いを当時の駅前ニチイデパート内の明治パーラーで日時を改めて行うことになった。（渡辺）



50年前、あそこの石段で

まもなく第1回準備会が開かれて、会の名称をなんとか、役員体制はどうするか、年会費はいくらにするかなど話し合われた。その時の参加者はおおよそ次の通りで、鈴木儀雄、渡辺義一、武田繁雄、渡辺徹、千歳澄子、柴田（女性）、増川百合子、黒沼美江子、山口利光、菊池保夫の各氏、他2～3人。その後入会が上白土晋一、秋葉正雄の各氏。会計年度を4月～翌年3月、役員任期は総会～次年度総会まで

再選有。顧問に市保健体育課長谷川、菅原両氏が選任された。その後も何度か準備会がもたれた。

そして創立総会は3月に開かれた、人数十数名、場所は、やはり明治パーラー。

正確な日時は覚えていない。（渡辺）



正面が駅、左側が明治パーラー（当時）

【会の目標等】

- ・誰もが安心して参加できる会にする。
- ・俗社会の役職は不要、皆平等の扱い
- ・山行中はリーダーが全責任を負う代わりに、会員はリーダーの言葉に絶対服従。
- ・例会は月1回、役員会は明治パーラーで毎月11日、夜7時。反省会はその都度か次の月の例会の時意見や要望を聞く。
- ・スポーツ保険の加入、バッチ、愛好会の旗の作成（5本ぐ作ってもらった）。渡辺さんの記憶によると黄色い小旗に、雁戸山があしらわれ、黒で山形市民登山愛好会と入っていた。しかし値切ったため、質が悪く、色落ちしてみっともないので使うのをやめたそう。
- ・規約はまだなかった。

そして記念すべき第1回例会があつた雁戸山だった。あの時意気投合した7人の侍が登ったのも雁戸山、この2つの出来事からその後愛好会のホームは雁戸山と呼ばれるようになった（後述）。



渡辺徹さん、創立より長年事務局（長）をされた。2代目鈴木さんのあと5年ほど会長も兼務された、現在86歳。

印刷会社退職後、県立博物館ガイドや、滝山地区地域行事等で現在も活躍されている。武田君も私も昔はもっとスリムだったんだよ。

創立された皆さんは、地域の山岳会でもない愛好会という本会がまさかその後50年も続くとは当時おそらく思っていないだろうし、渡辺さんの記憶でも、写真も含め当時記録・保存するという意識はあまりなかったそうだ。なので写真含め記録が少ないのはある意味やむをえないことかもしれない。最初は役員会等も喫茶店の団体用テーブル囲んでコーヒー飲みながら、次どこにする？みたいな感じで、口頭による打ち合わせのようなものと推測される。おそらく「軌跡」にかろうじてある記述は会員個人が資料を保管かメモしていたものであろう。



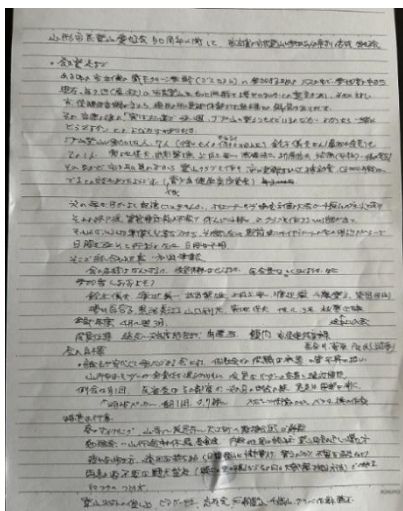
高橋浩三さん、発足時の中心メンバーの一人。観光課に移って登山道整備などしたが、愛好会の活動が役に立った。市役所退職後も民生委員など歴任される。現在77歳 今は散歩だけだが、ちょっとまた山に登ってみようかなとおっしゃっていました。

空白の1978年（昭和53）～1983年（昭和58）6年間の謎

まだ会員が少なかった頃で例会案内など当時の資料が見つけれないという複数の方の証言から、活動がそもそも低調だったのか、あるいは愛好会としてちゃんと記録していなかったと考えるのが妥当かと思われた。しかし今回会報誌「こまくさ」発見で、当時きちんと記録されていたこともわかった。例会も月に1回程度実施されていた。これだけ几帳面な渡辺さんがいるのに、なぜこの6年間の記録がないのか疑問に思い再度尋ねると、だんだん思い出されて、そういえばこの頃私は職場が変わり、米沢に転勤にもなって、日曜日に休みが取れなくなって山行を共にすることができなくなった。そのため会の代表として責任を果たすことが困難となって会長の職を辞したため、その時期の活動記録が残っていない。山形に戻ってから引っ越し先で新しい住宅団地ができ、地域役員等で忙しくなり、愛好会もしばらく離れていた。当時も愛好会は続けられていたが、少し活動量は落ちていたようだ。結局会として記録・保存されなかったのかなという話となった。ある意味これでつじつまが合うという結論に達した（笑）。その後渡辺さんは役員に復帰され、その後の詳細な愛好会の活動と記録を残された。

懐かしい写真だなあ、若いなあ、みんなどうしているかな、山はいい、そしてほかの行事も含めとにかく楽しかった。だから50年も続けてこれたのだろう（渡辺さん）

写真を見ると当時のことを思い出す。当時としては画期的だった市民登山、大型バス2台も出して市が大規模に一生懸命やっていた。それをきっかけに愛好会スタート時からとても仲が良かった。会をやめてからも当時の仲間と年賀状のやり取りなど続いた（高橋さん）



記憶に頼るな、記録に残せ
（野村克也名言集）
事務局の渡辺さんは、これを
実践しその後きっちりと記録を
残していられる。

初期のころの様子がわかる今回の貴重な渡辺メモ



1981年6月例会案内(今のところ一番古い現物)イラスト入りの渡辺さんの手書きの原紙

(2) 1975年～1984年

創立の年は、雁戸山の他、9月14日山形市民登山12回月山に参加し、会独自では10月26日に14名で南蔵王縦走をしている。翌年からは本格的に活動を開始し、10回の活動を行っている。第13回市民登山の一切経山参加、2泊3日の鳥海山、2回のオリエンテーリング大会（記録にはOL大会とあって、働く女性だけの山行かお試し登山でもあったのかと思った（笑）、蔵王クリーン作戦の他、新年会、家族水泳大会、芋煮会など山以外でも楽しく交流をしている。また2月には、会報誌「こまくさ」第1号を発刊している。今回第1号のゲラのコピーが見つかった。A4版8頁、巻頭の文章は〈山と私〉蔵王の思い出と題する古川会員の父古川武夫さんだった。蔵王温泉がまだ高湯と呼ばれていた子供の頃からのエピソード。

本会のバッチ、エンブレムに雁戸山と駒草が描かれているのはこれらに由来する。軌跡の1976年の活動が詳細なのは、この「こまくさ」第1号に増川百合子、黒沼美江子両氏によって、昭和51年度記録として詳細が載っているからである。渡辺さんの記憶によると「こまくさ」はこの1回の発行だけで、その後投稿が減ってしまい、継続されなかった。1977年は15回市民登山7月の鳥海山のみ記録。1978年（昭和53）～1983年（昭和58）の山行記録一覧はわかっていないが、今回渡辺さんの手によるかわいい手書きのイラスト入りの例会案内の原紙が見つかり、1981年6月には豪士山、白鷹山。7月には祝瓶山を予定していたことがわかった。このころはまだ会員数でも多くて30人程度で、山行はほぼ県内限定、公共交通機関を利用のため、駅やバス停に比較的近い山（例えば村山でいえば甕岳、面白山など）がよく選ばれていたようだ。バス路線等がないときは駅から何台かでハイヤーを分乗して登山口まで移動するのが通常だったそう。



- ① 発足から2年目ごろのもの。印役付近の馬見ヶ崎河原（高橋氏のご自宅の近くだった）でビアパーティー。中央後ろのベストが初代会長菊池保夫氏（現喫茶コスモス店長）その手前。メガネの折原信雄氏（当時市保健体育課）、左端高橋浩三氏（同教育委員会）この3名が中心となって発足にこぎつけた。



会報誌 こまくさ1号(原稿)
1976年(S52)2月創刊



- ②市民登山愛好会の山雁戸登山の帰り関沢のバス停(現在なし)雁戸山へは、毎年登っていた。関沢コースが多かった

またしばらくは正月の千歳山登山の後、4月に体力、筋力を回復するためサイクリング企画を実施し、5月にホーム雁戸山からその年の山行がスタートするのが慣例だった

ある年の春のサイクリング、③写真の時は護国神社～大野目山寺街道～山寺サイクリングコース～立谷川沿い～寒河江川沿い～慈恩寺～左沢の本一公園～下条～山形駅 49km

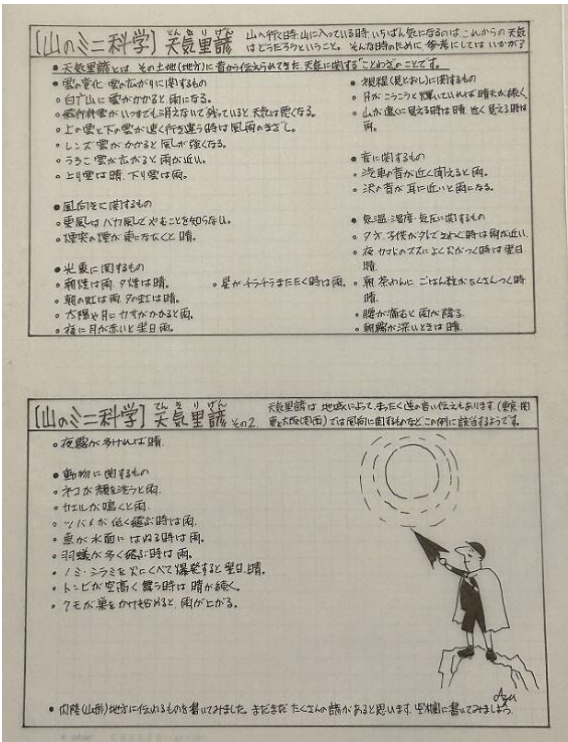
山に登るだけでなく勉強もしよう！山行途中の休憩、昼食後などに勉強会を開いた。内容は山の名前の由来、地図の読み方、登山用具の正しい選び方、疲れない歩き方、適正な持ち物（日帰り登山でも懐中電灯、替えのシャツ）、リュックの詰め方、観天望気の知識、天気里諺（てんきりげん）シリーズなど。登山以外の催しもの：ビアガーデン、忘年会、元旦登山・千歳山、蔵王クリーン作戦など。愛好会は親切で勉強にもなると話題になり、会員も口コミで増えていった。



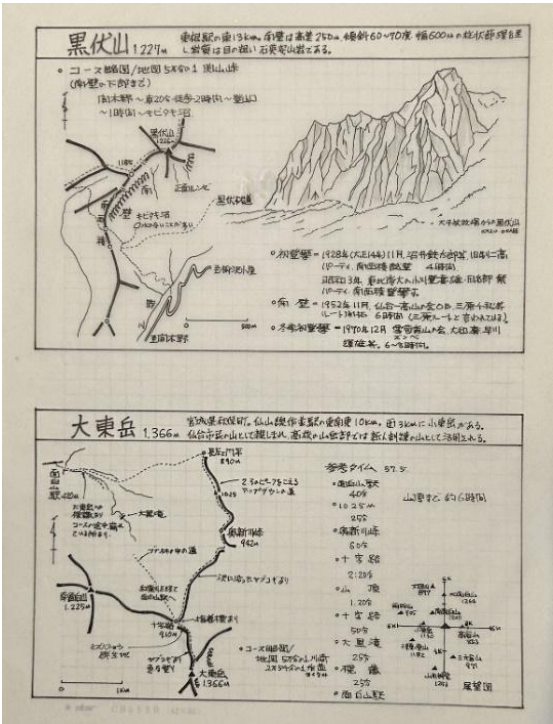
③早春足慣らしサイクリング 冬眠で休んでいた足を鍛えるため毎年行われていた。護国神社前で出発式のポーズ



④白鷹山・黒森山で新人歓迎登山 友が友を呼び会員数も増えていった



渡辺さんが書いた 天気里諺1. 2号



そして山の紹介 手書きの山の説明、ルート図 黒伏山、大東岳

当時はまだ山形市ではあまり知られてなかった甑岳の市民登山に参加し、村山山岳会より山形市民登山愛好会と紹介されたり、長井山岳会より長井葉山を紹介してもらったり、山の他団体との交流も進んだ。ある年村山山岳会と葉山に登った時は、当時はまだ自家用車も普及していないころだが、先方から楯岡駅から車を出すといわれ

たので、すごいなと思い行ってみると耕運機にリヤカーをつないだもので、これでガタゴト揺られて登山口まで行った（笑）

1976年山学同志会がヒマラヤのジャヌー（クンバカルナ）峰7710m北壁初登頂記念で当時キタシロスポーツという運動具店で「映画と講演の夕べ」というのがあり、無酸素単独登頂した三羽勝さんが来県したとき、思い切って会宛の色紙をお願いして2枚の色紙を書いてもらった。1枚目は右上部に山形市民登山愛好会 岳兄へ、次行に「素晴らしき岳人を目指し頑張りましょう」三羽勝、2枚目に同岳兄へ

「体力、技術、精神力」と登山の三要素を書いていたが、そのうちの一枚を友情の証として村山市山岳会に寄贈。のこり1枚を愛好会が持っていたと記憶している（現物不明）また当時話題になった本が「女子高生ヒマラヤに立つ」で東京立川女子高等学校の生徒7名が修学旅行でヒマラヤへその記録本。



⑤⑥毎年村山市、村山山岳会、みどりの会等合同で行われた春の甑岳市民登山での一コマ
右端が副会長秋葉正雄氏、右側最後尾も



⑦⑧東根市、東根山岳会主催の御所山開山式でのスナップ。左から二人目折原信夫氏
中央秋葉正雄氏、右より2人目渡辺氏、後列赤い帽子に赤いセーター柴田会計担当



⑨面白山山頂で 当時の中心的メンバー左端鈴木儀雄氏（顧問）右渡辺氏、右隣り後列上白土晋一氏（会計）一人おいて山口利孝氏（監査）右端秋葉正雄氏（副会長） 当時はニッカポッカが主流



⑩秋の甑岳 前列左端より千歳澄子氏、渡辺氏、武田氏、後列左より2人目渡辺義一氏（共に幹事）



⑪ 秋田駒ヶ岳



⑫阿弥陀池 2022 決死の山行と違い穏やか



⑬鳥海山、河原宿上部雪渓にて先頭を切る
矢田いと子氏



⑭岩手焼石岳 当時の幹事 前列左渡辺
義一氏、右佐藤きよ子氏、後列左秋葉正雄
氏、武田繁雄氏、渡辺氏、千歳澄子氏
上白土晋一氏、右端鈴木儀雄氏

① ～⑭の写真は20年前に渡辺氏より提供、
いずれも正確な年月は不明、コメントも当時のもの。
皆様、本会の貴重な記録につき、掲載へのご理解ご了承
お願いします。



渡辺さんがデザインした会のバ
ッチ。加入すると会員証として
もらえたが、その後値上げを機に
終了、愛好会の小旗も5本くら
い作ったが行方不明

(3) 1985年～1994年

この頃から千歳山元旦登山（初年度9名）がはじまる。大みそかに登り、ラジオの除夜の鐘を聞き新年を迎え、下山後丹野こんにゃくの向かいのラーメン屋で新酒を酌み交わし新年会を開いていた。その後は1週間程度遅らせての現在まで恒例行事となっている。山頂での安全祈願、新年会を開催。他にもビアパーティー、納会、忘年会、芋煮会など大忙し。交流会もしっかり位置づけられている。1984年(S59)7月に初めて1泊2日で県外の磐梯山・猫魔ヶ岳・雄国沼に登っている。



1984.7 現存の2番目に古い例会資料
磐梯山

そしておそらく 1984 年 (S59) に 10 周年記念登山が行われたのだが、どの山に登ったのかがはっきりしな

い。吾妻、月山、蔵王のどれかだったと思うが月山、蔵王はいつも登っているから吾妻山だと思う。(渡辺)

第4代会長（1984年？～2002年） 武田繁雄さん

創立メンバー



山形市民登山愛好会発足50年を記念し思い出を綴ってみました。

私が入会したきっかけは市民体育課（主催）の夏の登山の帰りのバスで、菊池保夫さんか、鈴木儀雄さんだったと思いますが、「今度市民登山に参加した有志で会を発足するので、参加してほしい」との話があり、山好きの私は迷わず入会の申し込みをしたのが50年前の話です。当時19歳での入会となります。

例会は月1回春から秋までで、忘年会か新年会も開催していました。そして3月に総会です。千歳山と雁戸山は毎年必ず例会に入れて登っていました。市主催の夏・秋の登山には個人で参加してもらい、帰りのバスで、マイクで会話をさせてもらい会員を増やしていききました。夏の蔵王クリーン作戦にも会としてよく参加をしてました。私は3年目には役員になっていたと思います。事務局長の渡辺徹さんあたりから口説かれてだったと思います。

役員会は2か月に1回、今は無くなりましたが、駅前の喫茶店明治パーラーと決まっていた、コーヒー代は活動費で出してサンドイッチやパフェは各自で負担してもらいました。2か月分の例会の打ち合わせで、集合時間、コースなど決めて案内を出していました。案内状も当時はハガキで渡辺さんが2か月の予定をイラスト入りで綺麗にまとめて書いてくれました。ハガキ代が7円で、今は85円ですから時の流れを感じます。

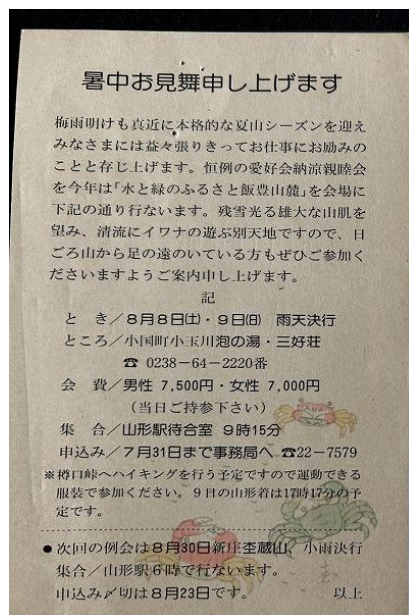
私が会長になったのは20代前半だったと思います。役員会の後に飲みに誘われて鈴木儀雄さんと渡辺徹さんから酔ったところで次期会長の話が出て、「バックアップするから」と言われて引き受けてしまいました。初期の頃の例会は参加者が15名ぐらいで、汽車とバスを利用していました。当時は便の本数も多く、北は村山、南は南陽そして仙台方面の山にも登っていました。深田久弥の日本百名山がブームとなり、東北自動車道が出来てからは、県外の山にも登るようになりました。東北6県はもちろん、長野県の中央アルプスも登っています。

この頃には例会も月2回になっています。汽車もバスも便数が減って、会員の自家用車を出してもらい乗り合わせで行くようになりましたが、総会で交通事故に会った場合の責任の話が出てから、今のレンタカーで行くようになりました。会員も50名前後でしたが、役員会でもっと会員を増やすことになり、市報に会員募集を掲載させてもらったらこれが当たり、多い年で100名の大所帯の時もありました。レンタカーも1台では足りず、2台になってしまいました。運転者は初めから及川さんで、2台必要な時は及川さんに運転者を探してもらい色々助けてもらいました。

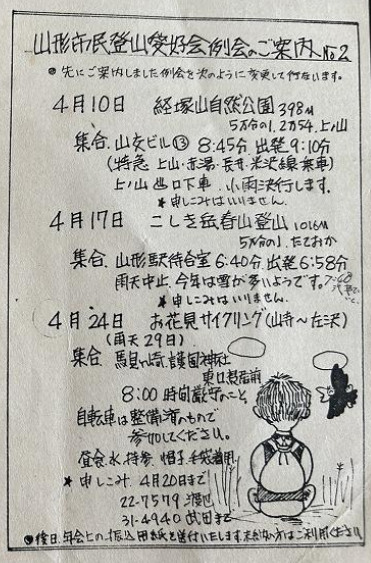
例会では大事故まではいきませんが、事故もありました。何年か（1990年、詳細別頁）は忘れましたが、面白山の下山途中で地バチの巣を踏んでしまい、多くの方が刺されてしまいました。1人が意識朦朧となって動けなくなってしまい、数名の会員が面白山駅まで下山して、駅前の店で救急車を依頼しました。救助隊が担架で下まで降ろし、病院まで搬送してもらいました。幸い本人も意識が戻りその日に退院しました。

私も参加していたのですが、子供を連れて行ったため、子供が途中でぐねて引き返してしまい、その場にいなかったのでもう申し訳なく思っていました。ただこの事故がテレビの夕方のニュースと新聞に掲載されてしまい、役員会で話し合って活動を半年間中止にすることになりました。

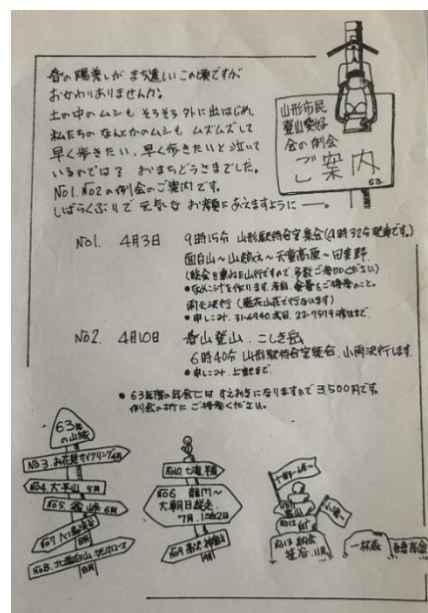
こうして改めて振り返ってみると多くの会員の面影が浮かんできます。亡くなられた方も多くいます。皆さん山が大好きで参加されていました。愛好会で50年間続いた会は多くありません、自慢の会です。私も楽しい思い出がいっぱいです。最近では参加することが少なくなりましたが、山形市民登山愛好会の発展を祈念しています。



ハガキ 1987 年ビアガーデン



1988 年お花見ハイキング、手書きイラスト



公共交通機関から、マイカー、運転手付きレンタカーへ

1988年ごろから、月1度から年間20回ほどに例会が増えてきている。その後一時利便性でマイカーの利用が増えたが、事故対応等考慮してその後中止。1989年（H1）には市報に会員募集の案内を出したところ、前年倍増の会員89名となり、この頃から移動にレンタカーを使う今のスタイルが確立した。これによって県外山行も可能となり年に1回2泊3日の遠征も恒例となっている。その時から現在までお世話になっているドライバー及川さん、当時はもう一台葉山山荘の車を借りての松田さん、そしてその後斯波さんとずっとお世話になっている。特に最初からドライバーとしてお世話になっている及川さんにはいつも山行ごとの山の地図やパンフレットを人数分準備いただいたり、夏は下山すると最高に美味しい冷たいジュースなどを振る舞っていただいたり、運転以外にも会員にいつも大変気遣っていただいている、ありがとうございます。及川さんは現役のスキー選手で、飯豊、朝日など庭にしているベテラン上級登山者でもある。



及川祥平さん

1990年（H2）には飯豊山（大日杉～本山～大日岳）26名参加、1992年（H3）秋田駒ヶ岳・乳頭山28名、1993年（H4）7月尾瀬・至仏山、同9月八甲田連峰など。1992年（H4）には霞城公民館で1月に山の映写会、2月に茶話会なども開催されている。野点をする会員（秋葉さん）がいて山頂でお茶をごちそうになった。という記憶も。1994年（H6）創立20周年には、7月に45人の参加で月山登山、その後志津温泉で懇親会を

開催、12月には忘年会を兼ねて20周年記念祝賀会（瑞峰閣）を開催している。

学習会の開催が恒例に

そのころから冬山登山の希望があったが、まだ運営上不安があったため、代わりに学習会をやろうということになり、2月に「山の花」と題して佐藤善一さんを講師に学習会が開かれました。この年から年1回内外講師による学習会が開催されるようになり、現在まで継続されています。その後1997年からは雪山登山（トレッキング）も始まっている。

学習会 年度	記録が正しいとすると1994年からスタートした模様 タイトル	講師	
1994	山の花	佐藤善一氏	
1995	ヒマラヤの話	横尾春弥氏	
1996	山の天気	今野正裕氏	
1997	地図の基礎知識	田崎信治氏	役員
1998	山で病気になったら	峯田武興氏	
1999	中高年の安全登山	斎藤弥助氏	
2000	中高年の安全登山	高村真司氏	
2001	50年登山の今昔	田崎信治氏	
2002	山形は植物の十字路	志鎌節郎氏	山形野草園
2003			
2004			
2005	野と活性酸素	峯田武興氏	
2006	山の転機となった大鳥池	高橋金雄氏	写真家
2007	応急手当講習会	市消防署	
2008	エベレストの頂に立つ	遠藤博隆氏	
2009	夢を追いつづけて	遠藤博隆氏	
2010	安全で快適な感動ある山行	井上邦彦氏	小国山岳会長
2011	鷹と共に大自然の中に生きる	松原英俊氏	
2012	私の花山旅	吉田悟氏	写真集
2013	今、原点に戻る	和田英光氏	会員
2014	楽しい地理・地図の話	松浦郁男氏	会長
2015	おいらの山登り	吉田岳氏	悟氏に続き親子で講演
2016	山岳遭難救助活動の実情山を侮らない	白田一志氏	幹事
2017	山形の山を歩く	小林達也氏	山形新聞夏山縦走
2018	K2への挑戦	飯澤政人氏	西川山岳会
2019	山でのトラブル対処法	茂木大介氏	モンベル山形店長
2020	コロナ禍で中止		
2021	コロナ禍で中止		
2022	事故事例研究とロープワーク	三浦鐵太郎氏	前事務局長
2023	朝日連峰の魅力について	佐竹伸一氏	朝日山岳会会長



1993.5.22-23 那須連山 茶臼岳



2010年 安全で快適な感動ある山行
小国山岳会長 井上氏



2011年 鷹と共に大自然に生きる
鷹匠 松原氏



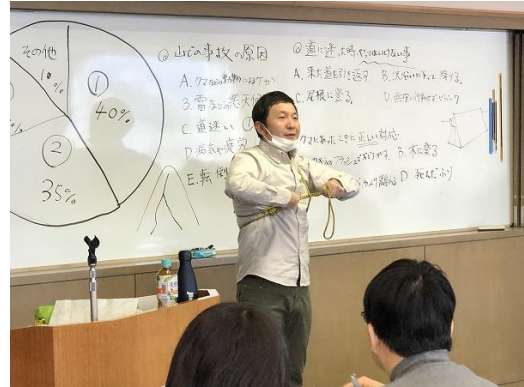
2018年 K2への挑戦 西川山岳会 飯澤氏



実際の装備品



2017 年 山形の山を歩く
山形新聞 小林達也氏



2019 年 山でのトラブル対処法
モンベル山形店長 茂木大介氏



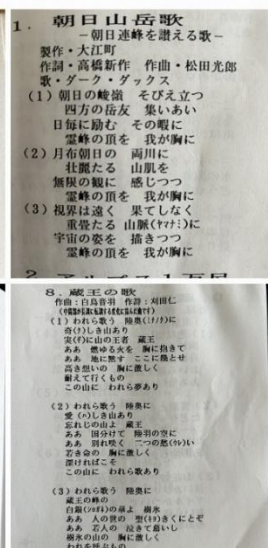
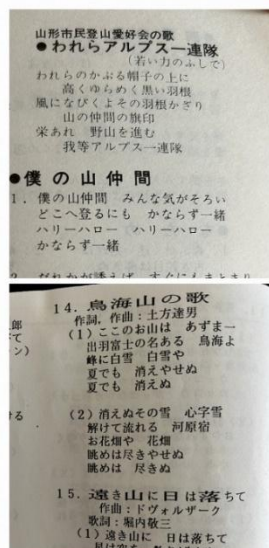
1993.9.24-26 八甲田連峰 大岳



1994.7.24 20 周年記念登山 月山 45 名

登山といえばみんなで山の歌を歌う！！

今回最初の手作り歌集が見つかりました。表紙には一つずつ違う手書きの花の絵がかいてあります。絵は渡辺さん作。山形市民登山愛好会の歌（われらアルプス一連隊）もありました。その後歌集は2回発行





コーラス隊

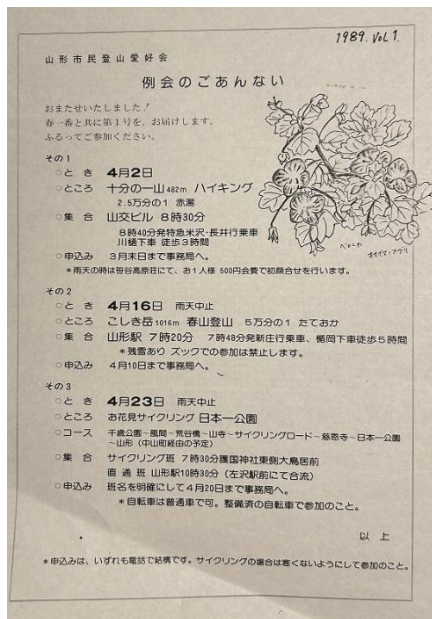


当時の専用届書

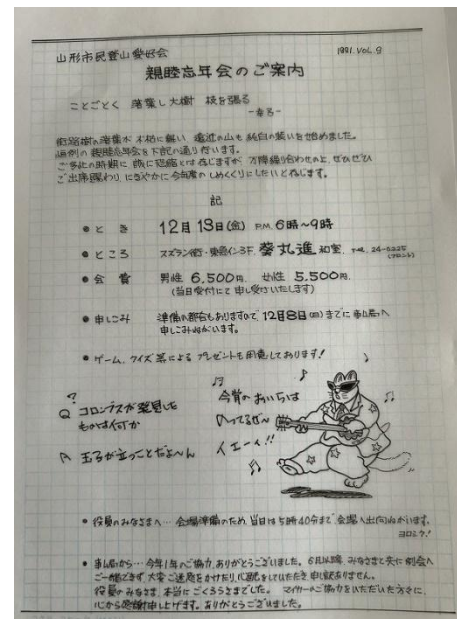
入会申込書	
●確認の上で必要ですので、ご記入の上例会参加時に事務局へ提出してください。	
ご氏名	更科保恵 性別 男・ <input checked="" type="checkbox"/> 女
生年月日	年 8月28日生 年齢 <input type="text"/> 歳
ご住所	〒990 山形市落合町
連絡先電話番号	TEL 41 11 番
ご希望などありましたら、記入してください。	
●上記の通り申し込みいたします。 1994年 4月28日	

入会申込書

あらっ偶然大先輩の名前が



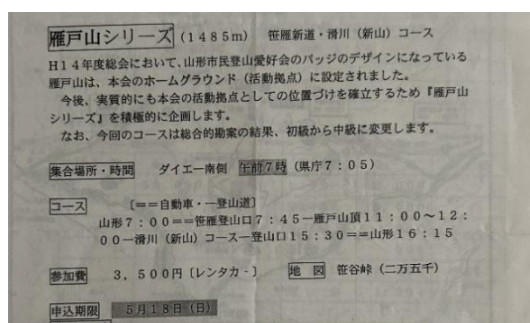
1989年 写真植字でもイラストがいですね



1991年 忘年会案内 行きたくなりますね

(4) 1995年～2004年

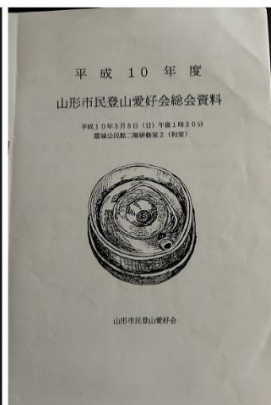
この年に現行の規約が作られ、何度かの改正を経ながら現在もこの規約で会の運営を続けております。県内でも難易度の高い最上東北百名山の丁岳、やまがた百名山の加無山などにも何度か登っています。当時は地元の方ぐらいしか知らない現炭沢山（699m、旧兄者山あんじゅやま）や、日陰袖山ひかげそでや424m（山寺馬口岩、アイスヒルの山）などにも登っています。1997年には山の写真と山の絵展が開か（開催場所不明）11名が出品される。さらに1998年（H10）には田崎さん、平野さん他写真好きが会員写真展（東北電力ギャラリー）を開催し、新聞にも取り上げられ大変好評で、翌年も開催したと記録があります。このころには会員数100名を超えるまでに組織が拡大していました。2004年には30周年記念登山で19名がホーム雁戸山に登って、新山釣り堀で懇親会をしています。（当時の写真等はまだ見つかりません）



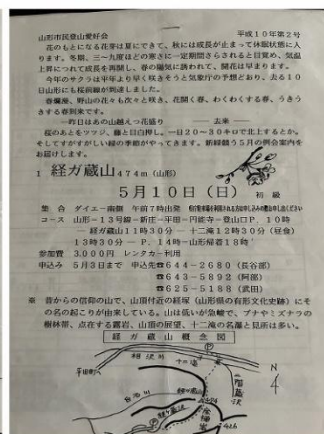
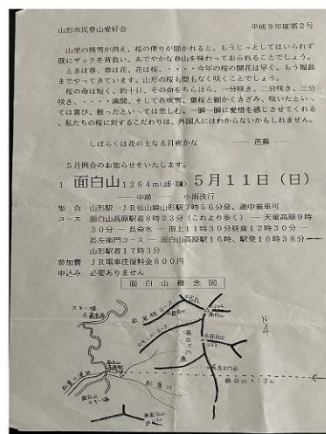
2002年の総会で雁戸山がホームグラウンドに設定される。当時は旧ダイエーの南側が集合場所だった。



バッチはこちらのエンブレムに



総会表紙にさりげなく手書きカット(渡辺さん)



金沢稔さん作 例会案内 時候のあいさつと一句載
ってる風流な例会案内 手書きの地図も味があっ
ていいですね



2001年(H13)6月10日 駒ヶ岳・豪士山

第5代会長(2003年~2016年) 松浦 郁男さん
創立50年に寄せて



50歳になって、登山でも始めようかと、知り合いのSさんを通して入会しました。入会して8~9年後の2003年3月、武田会長から「次期会長をやってくれないか」と予期せぬ要請をされました。登山の経験も知識も浅く、断ろうと一週間ほど悩みました。勿論、家族も反対でした。しかし、20年以上も会長を勤めてくれた武田さんの労苦に報いるべきと考え、引き受けました。そして、役員や会員のご尽力のお陰で、14年間何とか続けてきました。思い出に残る例会と言えば、

①2000/4 金山町の薬師山(初めての先達)

②2015/7 40周年記念の荒島岳・大山・伊吹山(初めての3泊で、合間を縫って、石川県加賀市の「深田久弥山の文化館」、福井市の「一乗谷朝倉氏遺跡」、岐阜県の「関ヶ原古戦場」等の社会見学も)

③2018/3 茨城県八溝山(帰り道、帰宅困難区域の福島県大熊・双葉町の国道6号線を北上)。

会長として、いろいろ貴重な体験をさせていただき、またいろんな方と交流することで、その後の人生に間違いなく、プラスとなりました。

山形市登山愛好会の今後のさらなるご発展とご隆盛を祈念いたします。



・40周年記念登山1日目
宿で会長挨拶

・深田久弥の文化館

(5) 2005年～2014年

このころから 最上の巨木めぐり、滝巡り、旧六十里越街道、イザベラバードの道など
数年にわたって実施したピークには登らない「シリーズもの」がはじまり人気があったようです。



2007.5.19 最上の巨木巡り、滝の沢の一本杉



2008.5.24 イザベラ・バードの道 黒沢峠



庄内滝巡り 2009 年 十二滝



2010 年 奈曽の白滝

また東北以外の日本百名山をハシゴする企画もあり、愛好会の山行だけで通算で日本百名山の半数を超える60座ぐらいを登ることができました。最近見事日本百名山達成のKさん曰く、愛好会で半分くらいは登ったんだよ。2012年からは春に復興支援として被災3県の山に登り、被災者に思いを寄せ、復興市場などで買い物などをして数年にわたり復興支援登山をしました。



2006.9.16-18 乗鞍・蓼科・霧ヶ峰・美ヶ原



2007.9.22-24 浅間山・四阿山・草津白根山

第5代副会長（2003年～2021年） 更科保恵さん



2001年より幹事

愛好会に入会したのは、はっきり覚えていませんが30年近く前だと思います。それ以前は主人と千歳山へ行く位で、あまり登山らしい山行きは行った事はありませんでしたが、広報やまがたで愛好会の募集が書かれていて申し込みました。最初の頃は個人の車や列車や路線バスで移動し、参加募集も取らないので遅刻すると置いていかれました。そして当時は山形百名山の定義も無かったので、それ程高い山や遠くの山には行きませんでした。会員様も全体的に若かった様な気がします。そのせいか、山頂で歌を歌う人がいたりお花見や芋煮会や忘年会等々宴会があり、楽しいことがいっぱいありました。

最近スマホやパソコン等を皆さんが持っていていっしょに、貸し切りバスで日本中何処へでも行けるし会員の皆さんとの連絡を取るのも便利になり格段の違いに時代が変わり年寄りには付いて行けなくなりそうです。でもなんとか歩きだけは付いて行きたいと比較的簡単な山には参加したいと思っています。今でも楽しい愛好会です、もう少し山行に参加させて下さい。



ラーメンも2人も熱々ですね



役員の面々

ホームページ開設

2008年8月には、高橋正弘会員の尽力により、愛好会のホームページが開設され、画像付きでいつでも年度ごとに山行記録を閲覧することができるようになりました。

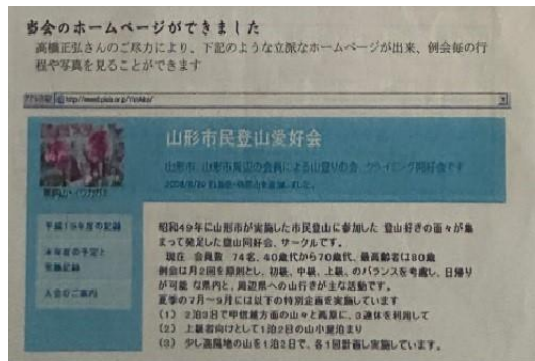
この時期の開設というのは世間的にも結構早かったと思います。お陰様で15年近く前の皆さんちょっと若かった頃の山行の様子を見ることができます。

今回の調査で2007年（H19）から2012年（H24）までの画像データが新たに見つかりましたので、今回ホームページに追加します。現在県内山岳会などがHPからYouTube、facebook、instagram等に移行し、臨場感あふれる動画など配信しています。

プライベートでこれらを発信している会員もあり、そろそろ検討すべき課題かもしれません。



2007.11.17 徳綱山



4月8日・福島県 ニツ箭山



ニツ箭山(709m) 低山ながらロープ、鎖の連続の岩登りの山。男体山、女体山の二つの岩場が象徴的な山。天を高く岩峰を英(嶺)竹に 隔立てのが山名の由来、沿岸漁民の守り神として磐石を築いた山

6:00 山形出発、西尾道橋(山形、東北、岩崎、常盤)いわき中央IC 8:30 登9:00 登山開始、男体山11:00、女体山11:15、登山口13:40、少し時間があったので、岩場の途中に三疊の滝まで足を伸ばした。しかし雨はあいにくまだ来ていた。

<http://www.yamanokai.sakura.ne.jp>

最初の画面は、恐怖の鎖場で有名なニツ箭山でした。

第5代 事務局長(2013年～2019年) 三浦鐵太郎さん

思い出の北岳 例会報告書より

平成21年7月18日(土)～20日(月)

北岳3193m・間ノ岳3189m 2日目例会の報告書から

白根御池小屋 7月19日AM3:20 まだ早いと思いながらも起床。私達は6時出発予定であったが、多くの登山者ももう出発している様子あり。私達も他の登山客と同様食事や登山の準備を行う。計画より早めの5:30 出発予定になる。小屋前で会長より挨拶、「500mの直登・北岳通過し北岳山荘で昼食、ここからサブ行動で間ノ岳往復し16:00 北岳山荘に戻る」の内容。ストレッチ後5:26 出発、天候は雲が厚く垂れ込み薄暗く今にも泣きそうな様子。直登の草滑り急斜面で雨となり雨具の着用、二俣分岐に近づくと雨の中、急に下りの登山者が多くなり急登の登山道も狭く木の枝が邪魔ですれ違うのにも大変。そんな中、周囲には今が盛りと言わんばかりのミヤマキンボウゲ・シナノキンバイ・グンナイフローなどの多くの花が咲いている、しかし観察や写真撮影する余裕はない。

下山の登山客から暴風雨で傘はだめだよとか、峰で帰ってきたとか、吹き飛ばされそうとか、例の北海道のトムラウシの低体温症遭難事故が頭をよぎる。しかし撤退命令は出てないから進むしかない。比較的風の少ない小太郎尾根で一時間雨対策休憩、心を引き締め寒さ・雨・風対策を施し出発する。峰に出たとたん雨風も強くなりだし、霧も出始めしだいに視界が20m程、隣の仲間の横顔、突風の横殴りの雨でメガネの方は視界が全く効かず大変そう。岩場にかかる鎖場で天候の悪に伴う登山者、早く登りたい我々グループと早く下りたいグループとがかち合い、譲り合い精神が失われ岩場の上から「何をモタモタしている。登るな、先に降りらせろ」など恫喝、狭い鎖の岩場、登山道は上り下りの登山者で大混雑、私たちグループは2つに分断。厳しい現実に向つてすべてのマナーが失ってしまうようだ。またザックカバーを飛ばされた登山者も数人(他のパーティの登山者)。遅れを取り戻したいが、遅くなった仲間を、肩の小屋手前のガレ場の道、迷いやすく行く先を見失うことの無いよう注意しながら肩の小屋に8:45 全員無事到着。小屋周辺は登山客で溢れ小屋に入りきれない状況。緊急の役員会議、北岳に登っても下りの北岳山荘までは無理と判断、肩の小屋での停滞を決意、小屋管理人と宿泊交渉、しかし時間も早く、小屋に入るには時間が早すぎ部屋の準備ができていないとのことで、どうなるのか不安の中暴風雨の中待つことになる。

9:15 2号棟の1階の部屋が割り当てられる。全員暴風雨からしのぐことが出来たが気持ちの中では明日への不安感が強くなる。昼飯を食べる方・寝る方・登山技術としてのロープワーク技術講習など様々、各自思い思いの時間を過ごす。部屋で会長から今後の日程として、今日は行動しない。明日は「5:00 出発・・・6:00 北岳・・・8:00 肩の小屋・・・小太郎尾根稜線・・・二俣(2209m)・・・広河原登山口着 12:30 の行動したい」提案、誰からも異論なし。更に天気祭を行う日程を組む。天気祭は会長の音頭で13:15の乾杯【本当に晴れるかな?】14:00 まで〇〇氏の「千の風」に続いてアザミの歌・最上川讃歌・山賊の歌・この広い世界、・・・1時間歌っても暴風雨は止む気配なし。19:00 夕食も大変、外に出て暴風雨の中を食堂まで行かねばならず!! 雨具を着たり脱いだり、夜の食堂は登山者の寝ている中での食事狭く混雑、話もままならぬ状況。北岳ならもっとリッチな生活ができたのに!! 肩の



小屋では何もすることが出来ない辛さ!! またキジ撃ち・花摘みが雨具を着用し外に更にトイレは「ポットトイレ」その下は崖?(今ではあり得ない) 下から強風雨が吹き上げ使用後も大変な状況と私は初めての経験であった。しかし部屋を与えられた私たちは幸せであった。男性はほとんど仕事の疲れか? 強風雨の中の歩き疲れか?

明日に向けてのエネルギー保存か? 就寝!! 逆に女性は今を生きる、スクワット・ストレッチ講習と非常に元気、明日は大丈夫かな……!!

【翌日: AM0:00 過ぎ早朝から満天の星 暗闇の中にも近くの山の様子が確認できた。天気祭り感謝、富士山の様子にも感激!! 幸せ!! 】 例会報告書 一部修正・追加もしました。(令和6年)



1995 年崑崙山脈未踏峰ギシリク・ターク峰 (6488m) 初登頂の三浦鐵太郎隊員 (47) 当時



その時の北岳山頂にて



2014 年復興支援登山 宮城 硯上山



多くの犠牲者の出た大川小学校跡地見学

(6) 2015年～2024年

2015年には40周年記念登山を実施。大山、荒島岳、伊吹山の西日本の日本百名山3座3泊4日の過去一番遠い山行を実施。濃密な交流を深めました。楽しかったけどずーっとバスに乗っていたね。



2015.7.18-21 大山



同 荒島岳



同 伊吹山



芋煮会の様子 2018 事務局長歌声披露

第4代 会計幹事（2015年～2021年）

須貝照代さん



入会の頃の思い出と当時の会計

主人が高校時代の3年間山岳部に在籍していた関係で、私も一緒に山行をする様になり、子供たちも小学生時代はよく一緒に登ったものでした。やがてそれぞれの立場で忙しく一緒に登ることはなかなか難しくなり市民登山愛好会に紹介されて私が入会させていただくことになりました。

1987年ころの入会だったと思います。その頃はまだ必ずしもマイクロバスがあった訳ではなく、公共の乗り物を利用する事も有りました。南陽市の高ツムジ山と秋葉山への山行の時は乗り合いバスで私たちの仲間で結構一杯になり下車の時は登山口まで乗せてもらい その後は空車という感じでした。高ツムジ山はパラグライダーのスタート場所で 秋葉山では野点で抹茶をいただき なんと贅沢なお茶会だった事か帰路は赤湯駅より電車で帰り一日の山行が終わりました。

2003年より幹事を引き受け 2015年から 2021年まで会計を担当しました。当時の会計は 集合場所で会費を頂き マイクロバス借代、高速料金代、燃料代、ドライバーさんへの謝礼等を支払い完全な一日解決型の会計でした、返金があると皆んな喜んでくれ私も嬉しくなった事を思い出します。お金の入った重いリュックをどんな所に行こうにも背中から降ろしてはならないと自分に言い聞かせておりました。そんな重い役を無事務められたのも、副会長の更科さん始め多くの役員の方々のサポートがあればこそ出来た事と感謝しております。



HP より

前世も 現世も 来世まで
お前が俺には最後の女♪

コロナ禍の対応を迫られる

2019年の年明けから猛威を振った新型コロナ、3月からの例会は中止、翌年春には県外移動の自粛などで県内の山に限定するも猛威は収まらず。ようやく夏にいったんは下火になり再開するも再び感染が拡大し、それ以降は活動中止となりました。2021年は総会も含めすべての活動が中止となりました。山の会なのに山に行けない、これほど辛いことはありません。

2022年の春から、ようやく活動再開しました。バスではマスク着用、換気、消毒の徹底を図りました。5月より新型コロナが5類に移行、この一年は主に前年の計画の山行を実施。またコロナ禍の状況下、例年蔵王で開催の芋煮会を役員負担の軽減も兼ねて、2日に分けて上山の里山に登り、旅館に宿泊しての芋煮会という新たな試みを実施しました。また数年ぶりに北アルプス、立山・大日連峰を縦走しました。その後時間に余裕の人が増えたということで、年2回の2泊3日遠征が定着し好評です。2023年は7月に鹿島槍ヶ岳、9月に燕岳～常念岳縦走、2024年は8月に火打山・妙高山 9月に南八ヶ岳縦走の2泊3日の山行を実施しました。

2020年7月28日

会員各位

山形市民登山愛好会
会長 白田 一志

例会の中止について

会員各位にあつてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、新型コロナウイルスが一段落したので例会を再開した途端第2派と思われる新型コロナウイルスが全国的に発生し始めました。当県でも患者が出るなど予断を許さない情勢となりつつあります。このため、今後の例会をどうするか役員で検討した結果、下記の通りとすることにしました。

記

1 結論

今年度の全ての例会を中止します。情勢を見て再開してはという意見もありましたが中止、再開、中止、再開としたのでは混乱しかねないということで全て中止することにしました。

2 主な理由

- (1) 新型コロナウイルスに有効なワクチンがない以上いつ感染するか分からず、感染しても決定的な治療薬がない。
- (2) 当会員の大多数がいわゆる高齢者のため仮に感染すると重症化する恐れがある。また、移動手段のマイクロバスは3密になりかねない。
- (3) 7月から例会を再開したが参加者が少なく、売店は8名（役員5名・会員3名）豪土山・駒ヶ岳は12名（役員8名・会員4名）と少なくこれも新型コロナウイルスの影響で参加を見合わせている会員が多いと思われる。

3 今後の当会の運営など

- (1) 例会を楽しみにしている会員には申し訳ありませんが会員の安全・安心を考えたことですのでどうぞご理解願います。今回の措置は、愛好会としての中止ですので個人や少人数の有志による登山は問題ありません。
- (2) 今回の中止は新型コロナウイルスのための中止であり来年度は新型コロナウイルスの猛威も収束するよう折り、また皆さんと例会を楽しむことが出来ることを楽しみにしております。
- (3) 状況を見ないと分かりませんが総会だけは開催したいと思いますので、来年の2月頃にまた案内状を发出する予定です。なお、全ての例会を中止することから来年度も継続して会員になれる方の会費は免除する方向で検討しています。

会員各位におかれましては、体調管理に努め再開時に元気に姿でお会いできることを念じております。どうぞご自愛下さい。

第6代会長（2017年～2021年） 白田 一志さん 新型コロナ禍を乗り越えて



私が入会したのは、2012（平成24）年4月です。仕事を辞めるとき趣味の登山のサークルがないかと探していたところネットで山形市民登山愛好会を見て入会しました。それまでは仕事柄山岳遭難事故の出動があったものの、リクレーショ的な登山はほとんどなかったので毎回の山行が楽しみでした。そんな折会長職の打診があり、2017（平成29）年から5年間就任しました。その間の思い出はなんといっても新型コロナ禍で、2020（令和2）年度と2021（令和3）年度の2年間、例会が中止になったことです。それまで会の結成から45年間悪天候で中止になったことがあっても、年間全ての例会が中止はなかった異常事態です。役員会を開催しようにも会場の借上げが出来なくなり、電話やメールで協議しいろいろな意見がありましたが最終的に中止を決定して全会員にその旨お知らせしました。私はこのまま会そのものが解散に追い込まれるのではないかと随分心配しましたが、役員や会員の協力の下コロナ禍の下火によりまた再開したのは何よりと思っております。会がこのまま長続きするよう祈っております。



飯豊石転び沢雪
溪で会長挨拶



2017年の山
東京都雲取山



2022.0716-18 立山・大日連峰縦走



2023.3.5 白太郎山



2023.7.29-31 鹿島槍ヶ岳



2023.9.23-25 燕岳～常念岳縦走 燕岳から槍を望む



同 穂高岳をバックに 常念岳山頂



2024.8.10-12 火打山・妙高山



2024.9.28-30 ハケ岳 赤岳山頂



同 ハケ岳 笑顔と達成感 下山口で

運営のデジタル化進む

コロナ禍以前までは毎回役員の自宅で開催案内と前回の報告書を人数分コピーをして切手を貼って封書による案内発送、電話による参加申し込み、当日朝の受付、参加費の現金払い、バス内での還元金キャッシュバック等を長年実施してきました。コロナ禍中、社会全体がいろんな変化を迫られる中、愛好会としてもだれでもなってもらえるための役員負担の軽減、通信交通費等の削減、情報、連絡の迅速化、お金の安全管理等を迫られました。孫とテレビ電話を楽しむ、LINE で山行計画のやり取りする、など通信をはじめ、すでに皆さんの生活はいやおうなしにデジタル化が先行しており、2022 年より総会での了承を得て、次のように順次変更してきました。

- ・会員全員にメールによる例会案内
 - ・アプリ調整さんに入力することでいつでも申し込み、キャンセルがスムーズに
 - ・年会費、参加費の郵貯口座への振り込み、郵貯ダイレクトによる送金手数料の軽減等
- またコロナ禍中はテレビ電話による役員会の開催などの試みも実施。

これにより、急な例会変更等の連絡もスムーズに。調整さんデータによる登山届が可能になり作業短縮。遠征時に大金を持ち歩かなくてもよい安心感など。年会費も 5000 円から 1000 円安くすることができました。また会計担当幹事の努力により、保険対応も随時可能となり、2024 年からは年間通しての会員募集が可能となり、積極的な会員勧誘ができるようになりました。

これからの課題等

中高年登山の安全安心、特に熱中症に気を付けなければならない夏場の山の選定に注意が必要です。例会はできるだけ会員の要望に沿って。最近では山行以外の交流があまり持てていない。50 年の歴史を振り返れば改めて山行以外の交流行事も大事にしてきたことがわかります。今の時代に合った交流の在方も検討する必要がありますが、普段の交流の深さで山行その他での難局も一致団結して乗り越えることができます。持続可能な愛好会の運営、積極的な若手の役員登用も必要です。

少し気が早いですが、次の 55 周年は 2030 年に、60 周年は 2035 年にしましょう。

第 7 代会長（2022 年～2023 年） 大瀧秀人さん

「人生を豊かにしてくれる登山愛好会」



愛好会創立五十周年誠に同慶の至りです。歴代会長・幹事はじめ会員の皆様に心からお祝いを申し上げます。

会長としてコロナ禍が明け一期二年の期間でしたが、大変楽しく貴重な経験をさせていただきました。

- 私の入会のきっかけ～会の HP、お試し例会は磐梯山
- 女性会員は元気～体力・持久力・登坂力は男性に勝る
- 幹事役員は奉仕観念旺盛～ボランティアの会運営
- 登山は胸突き八丁(九合目)が苦しい～その先に絶景が
- 思い出の例会

- ①燕岳・常念岳→北アルプス槍ヶ岳・穂高連峰のパノラマを眺めながらの稜線歩きは最高
- ②鹿島槍ヶ岳→後立山の盟主、吊尾根の姿は秀麗
- ③立山・奥大日岳→梅雨真只中、数回の雨具着脱
- ④白馬岳→日本三大雪渓、アイゼンを装着し踏破
- ⑤北岳・間ノ岳→キタダケソウや雷鳥と対面し感激

なお、長年にわたり親切で安全的確にマイクロバスを運転してくれた及川祥平さんに感謝いたします。
最後に、愛好会の今後益々の継続ご発展をお祈り申し上げます。



2022.4.23
ようやく山行再開！
宮城オルレ奥松島
コース



2022.6.25
過去最強の
爆風遭遇！
秋田駒ヶ岳

第8代会長（2024年～） 清水幸雄さん

山形市民登山愛好会創立50周年を迎えて



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

山形市民登山愛好会は本年50周年を迎えました。

この記念すべき50年という節目の年を迎えることができましたのも、これまでさまざまな形で私たちを支えてくださった会員の皆さまのおかげであり、諸先輩方のご苦勞とご努力に厚く御礼申し上げます。往年は100名を超えていた会員数はここ数年で減少の傾向にあります。最近ではコロナの感染拡大により活動の縮小、中断を余儀なくされましたことも多少は影響しているかもしれません。

またご時世ではデジタル技術やインターネットなど情報システムの進歩により生活パターンも大きく変化してきました。フィルム写真からデジタル写真に、郵送連絡がメール配信にと今では日常生活で当たり前になってきました。

ホームページも内容が充実しつつあり、情報を元に当愛好会への入会申し込みが増えている傾向にあります。登山者に於いては、「ヤママップ」や「ヤマレコ」など登山サイトを情報源とした登山計画、GPSを利用した現在地の確認など緻密な情報を直ぐに得ることができるようになりました。また登山靴や用具なども軽量化と時代とともに変化を辿っています。

しかしいくら便利が良くなったとはいえ、私達人間の体はさほど変わっていませんし電子機器の電池切れ、故障や紛失すればやはり紙地図コンパスは必要です。形は変われど基本は一緒であります。

年齢を重ねても健康でありたい、山が好きな人ならいつ迄も山歩きをしたいと思うでしょう。

私事ではありますが、年齢とともに体力の落ち込みを感じていまして、最近では以前にも増してストックを使う回数が増えましたが使ってみるとなかなか塩梅が良いもので使い方も奥が深い、山登りはやはり楽しいものです。これからも時代とともに登山にかかわる情勢は変わっていくことでしょう。

自然の力を侮らず謙虚な気持ちで山に入り安全登山を楽しんでいきたいものです。

山形市民登山愛好会のさらなる発展ならびに皆さまのご健勝とご多幸を祈念し、今後ともなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

II 山行編

この50年間どんな山にどのくらい登ってきたのか 一番登ったのは鳥海山！

現在1977年～1983年の活動記録の見つからない7年間を除き、毎年恒例新春登山の千歳山33回を除くと

一番多く登っているのはどの山か

第1位 鳥海山 17回 4位 甑岳 10回
第2位 月山 14回 5位 御所山、村山葉山 9回
第3位 雁戸山 12回

トップ3の山はいろんなコースで登っている、雁戸山は愛好会のホームの山という位置づけ
もちろん各種百名山に登るだけが登山ではないが・・・指標にはなりやすいかも

① やまがた百名山（2017年制定）は数えると91座登っている。未到なのは次の9座のみ

No.4 鳥兜山 No.13 舞鶴山 No.17 高取山 No.47 土湯山 No.49 柏木山

No.52 湯殿山 No.56 地蔵森山 No.58 北山 No.82 熊野山

条件が少し厳しいのがNo.49 柏木山（フェリーで飛島）、

No.52 湯殿山（雪山のみ）ぐらい

② 東北百名山 岩手、秋田、宮城、山形中心に77座登っている

③ 日本百名山 62座 東北の百名山（燧ヶ岳も） 15座完登
半分以上登っているのはすごい。

（内訳） 北海道 0/9、東北 14/14 上信越・尾瀬・日光・北関東
20/21（未皇海山） 北アルプス 7/16 美ヶ原・八ヶ岳・秩父・
多摩・南関東 10/13 中央・南アルプス 7/13 北陸・近畿・中
国・四国 4/8 九州 0/6

④ 日本二百名山 東北の10座 完登

⑤ 日本三百名山 東北の8座 完登



III 安全登山編

実際の登山時の注意喚起の他、学習会で繰り返し学んできました。

学習会	記録が正しいとすると1994年(創立20年記念?)からスタートした模様		
年度	タイトル	講師	
1998	山で病気になったら	峯田武興氏	
1999	中高年の安全登山	斎藤弥助氏	
2000	中高年の安全登山	高村真司氏	
2001	50年登山の今昔	田崎信治氏	
2007	応急手当講習会	市消防署	
2010	安全で快適な感動ある山行	井上邦彦氏	小国山岳会長
2016	山岳遭難救助活動の実情山を侮らない	白田一志氏	幹事
2019	山でのトラブル対処法	茂木大介氏	モンベル山形店長
2022	事件事例研究とロープワーク	三浦鐵太郎氏	前事務局長

2022 年三浦氏の学習会資料より当会の事故事例

2017(平成29)年度

6/24 不忘山・水引入道 …… 体調不良か体力不足、役員付き添いで下山

2018(平成30)年度

6/24 長井葉山 …… 体調不良か体力不足

2019(令和元)年度

4/21 大平山 …… 急斜面のロープ、ロープにフラレ怪我

6/29～30 雨飾山 …… 沢の渡渉あり(豪雨のため登頂断念)

7/13～15 白馬岳 …… 樹林帯の登山道で滑落

9/29 安達太良山 …… 霧と強風 隊がバラバラ くろがね小屋から下り ロープで転ぶ
岩場での転び…後ろ向きで、ロープから離れ脚力で降りる



以後新型コロナウイルスの影響で中止

2022(令和4)年度

6/25 秋田駒ヶ岳 …… 男女岳直下の木道に出た途端、ものすごい風が吹いてくる。
しゃがんで踏ん張って、木道を掴んでいないと飛ばされる。阿弥陀池分岐付近で前に進めなくなる。

これ等のデータから

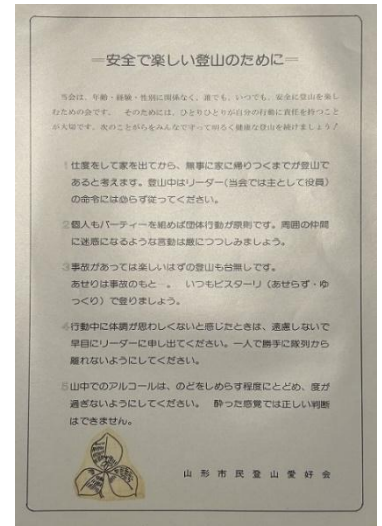
普通の登山道での滑落が多い。 …… 疲れの為か、何となく歩いている等、緊張感が欠如？

急斜面に対する身体への対応が苦手、ロープで下る時後ろ向きで下ること。

ロープワークによる問題の回避ができるもの沢山ある。

体力がなきゃ登山はできない。個人の登山では、少し重いザックで訓練し愛好会では軽めのザックで!!

急斜面のロープ…**下降ロープに体を寄せ付けず、後ろ向きで下る、急斜面で垂直に立つ。 足で登る(腕力で登らず)。**



2008(平成20)年度

10/4～5 朝日連峰(障子ヶ岳) …… 会員の飲みすぎ

2009(平成21)年度

6/20 湯ノ沢岳・母狩山 …… 登れず・体力不足

7/18～20 北岳・間ノ岳 …… 大雨の中、急斜面のロープでの渋滞(登山道しかりしてたので隊が分かれても迷うことなかった)

10/10～11 吾妻山(明月荘) …… 木道で滑って怪我

3/13 竜馬山 …… コース選択の誤りと雪の急斜面で2ヶ所でザイル使用、下山

2011(平成23)年度

8/6～7 巻機山 …… 登山できず途中で待っている方あり、問題は体力無さ

9/4 今熊山 …… 急斜面の下山(ロープあり)

2012(平成24)年度

4/8 品倉山 …… ビッケルでのカッティング(アイゼン無し) 高度恐怖症(装備の準備不足)

5/13 竜馬山・鉤掛森 …… 急こう配のやぶ中にロープ、登られない方2人と私で下山

2013(平成25)年度

6/22 蛇ヶ岳 …… 滑って沢に落ち(落差小)、衣服のずぶぬれ

10/5～6 岩手山 …… 山頂での強風(視界があったからよかった)

11/3 摩耶山 …… 登山道から沢に滑落

3/2 刈田岳(澄川スキー場から) …… 前人と離れた時、行く方向の確認、骨折

2014(平成26)年度

6/21 村山葉山 …… 42名の参加者・登山道入口に迷う、会員からの非難(コース調査したのか?)

7/5～6 飯豊山 …… アイゼンつけ登る方、途中から下山した方滑落(夏にアイゼン?)

7/19～21 焼岳・西穂独標 …… 独標でバランス崩し、私の背に追いかかれ私が危険な目に!!

8/23 高松岳・小安岳・山伏岳 …… 滑落寸前で止めることができました

2015(平成27)年度

6/7 飯岳 …… スタート30分程で体調不良(心臓)で即下山、マイクパスで帰宅

3/6 三沢山 …… 天童高原で大雪前に進めず撤退(避難する場所があったからよかった)

2016(平成28)年度

4/28 鳥海山 …… 鳳来山山頂先の横堂で、最大の難所にロープを張るがロープ短く他のロープをつなぐ
特別参加した方が結び直した。雪面で滑った会員の衝撃でロープの結合部分が外れる。

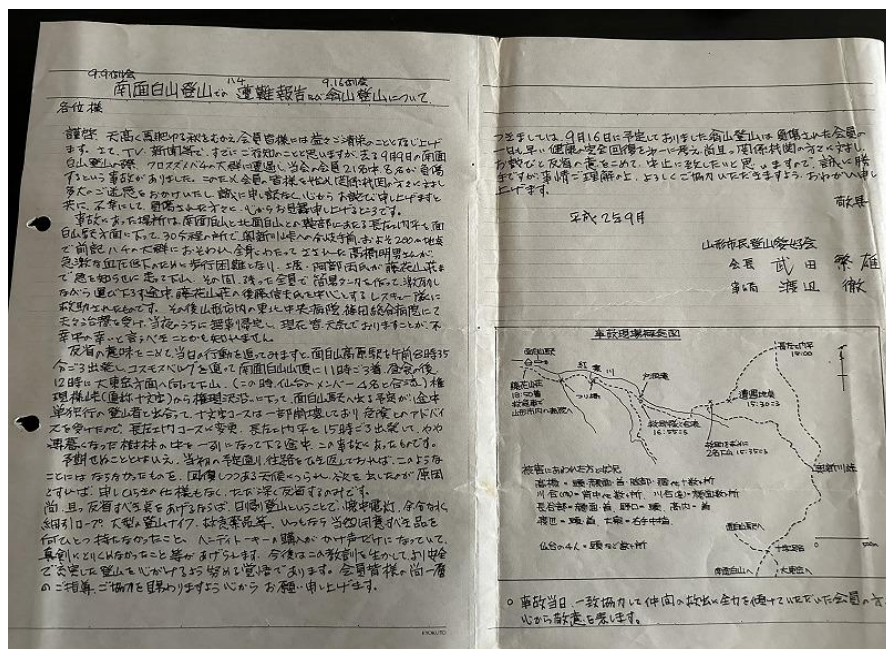
写真 : つぎに

座学もちろん大事ですがどちらかというと近年は実践の訓練が足りないもので、こちらを強化すべきなのではと思います。

過去にはこんな大きな事故が 統計でも熊、イノシシよりスズメバチの被害が圧倒的に多いそうです。

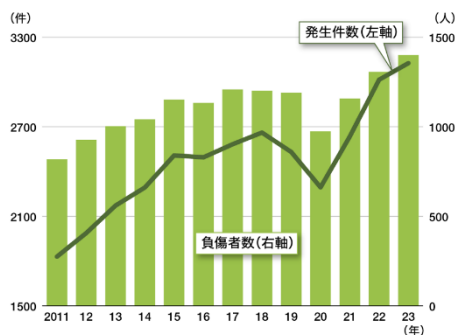
1990年 (H2) 9月9日

愛好会例会、南面白山でクロスズメバチの大群に襲われ10名が刺され、救急搬送。1名病院収容
他9名軽傷

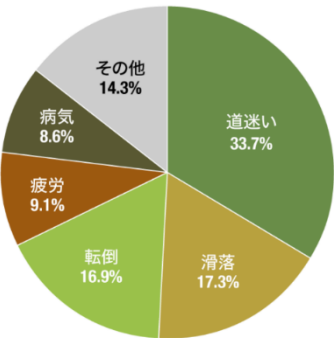


会員への報告書

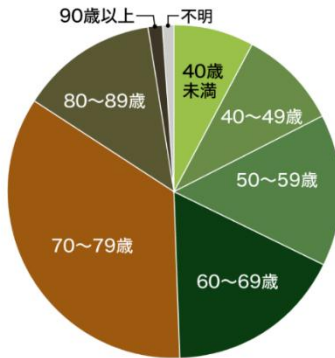
山岳遭難発生件数と負傷者数の推移



山岳遭難者の態様別割合: 2023年



年齢別の死者・行方不明者割合: 2023年



IV資料編

(別紙)

50年表

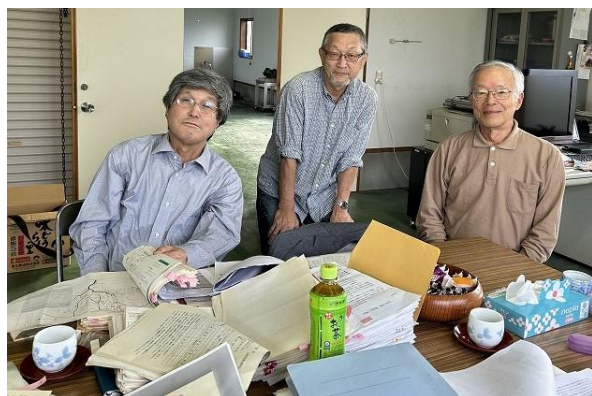
登ったいろんな百名山



編集会議 6.19 松浦宅



編集会議 10.16 更科宅



経過

- 2024/5/16 役員会で作成を承認
- 5/22 更科宅で打ち合わせ（更科、齋藤）
- 6/18 1997-2020 までの資料コピー
- 6/19 松浦宅にて打ち合わせ（松浦、更科、齋藤、）
- 7/2 市役所スポーツ課照会 齋藤
- 10/16 更科宅（武田、更科、須貝、齋藤、粕谷）
- 10/18 1987-1996 まで資料コピー
- 10/22 初代事務局 渡辺徹さん宅で取材（渡辺、齋藤）
- 10/24 1984-1986 まで資料コピー 同 旧役員投稿依頼
- 11/12 松浦氏より、こまくさ、写真等資料提供受ける
- 11/14 高橋浩三さん（創立メンバー）に話を伺う
- 11/23 渡辺さん、新資料を踏まえ最終確認に訪問
- 12/19 持ち回り編集会議で内容最終確認、出稿

渡辺さん、高橋さん、武田さん、松浦さん、須貝さん、そして、旧役員の皆さま、ご多忙の中、投稿をはじめ、資料提供、編集参加いただきありがとうございました。

2025 年 1 月 山形市民登山愛好会 50 年の歩み
編集委員会 更科保恵、粕谷砂知子、齋藤 修